

感動新聞

平成29年8月号 発行者 細川栄一

暑い夏、真つ最中ですね。この時期に思い出すことがあります。

あれから二十数年が経ちましたが忘れてはいけなこともあります。

今日というかけがえのない一日を...

ところが悲しいのは、予期せぬ事態の中で突然ふりかかってくる死、たとえば事故死です。

その事故死の中でも、瞬間的に死ぬのではなく、数時間、あるいは数分以内に確実に死に至ることがわかる死ほど残酷なものはないでしょう。

暑い夏、又、あの日がやってきます。日航ジャンボ機墜落事故です。

昭和六十年(1985)八月十二日、乗客・乗員五二四名を乗せた日航ジャンボ機、東京発大阪行き一二三便が、群馬県御巣鷹山に激突し、教手の坂本九さんをはじめ五二〇名が死亡しました。飛び散った残骸の中に一枚の遺書があり、そこにはこう記してありました。

「マリコ 津慶 知代子 どうか仲良くがんばってママをたすけて下さい

パパは本当に残念だ きつと助かるまい 原因は分からない

今五分たった もう飛行機には乗りたくない

どうか神様たすけて下さい きのうみんなと食事をしたのが最後とは

何か機内で爆発したような形で煙が出て降下しました どこえどうなるのか

津慶しつかりたのんだぞ ママこんな事になるとは残念だ

さようなら 子供達の事をよろしくたのむ 今六時半だ

飛行機はまわりながら急速に降下中だ

本当に今迄は幸せな人生だったと感謝している」 (原文のまま)

さぞ、残念だったことでしょう。かわいいさかりの子供を残し……

最後の最後まで家族のことを気づかい、そしてまた、

最後の最後に「幸せな人生だったと感謝している」と書けたことは、不幸な事態の中で、唯一救われた思いでした。

一日一生です。あなたは「幸せな人生だった」と最後の時に言えますか？

一日の行き方、過ごし方、考え方、そして習慣が“死”の直前にこの世の最後の結晶として実を結ぶのです。

夜、眠る前にはいつもその日、出会った人、起こった出来事を思いだし、嬉しかった事、楽しかった事を一つでも二つでも見つけ出し、感謝して眠りたいと思います。

「ああ！ 今日もよい一日だった。ありがたい事だ」

「今日もこうして生き続ける事ができた。今日迄ありがとうございました」と、感謝する。

その思いがきつと自分自身を幸せへと導いてくれるに違いありません。

「たかが一日くらい」と思いがちですが、

でも、今日無駄に過ごした一日は、昨日死んだ人が痛切に生きたいと願った一日なのです。今日というこの大切な一日はもう二度と戻ってはきませぬ。

一日一生。今日という一日を大切に